

函館市バス路線網再編案

函館バス株式会社
バス事業部
2018.3.16

平成30年度の取組み

《平成29年度2回目シミュレーション》

- ① 大幅な利便性の低下を招かずかつ効率的であると考えられる路線
- ② ニーズの変化に伴う、不採算路線の見直し及び新規路線の作成
- ③ 重複路線の解消
- ④ 高収益路線の維持

計画実行時には、
経営効率化が図られる
見通しとなった

平成29年度の2回目シミュレーション結果を基に、バス路線網の再編を検討する

《平成30年度の取組み》

1. 系統番号見直しによる基盤路線網の整理を実施する。
2. 美原地区路線バス乗降場の活用方法について、具体的な計画を作成する。
3. バス路線網の急激な変更により混乱を招かないよう、今後のまちづくりや公共交通利用者のニーズに合わせ、段階的に再編を進める。あわせて、五稜郭・湯川地区のバス停集約化に係る検討を進める。

1 系統番号見直しによる基盤路線網の整理

《現在の表示》



系統番号

行き先・経由地・ローマ字案内系統番号

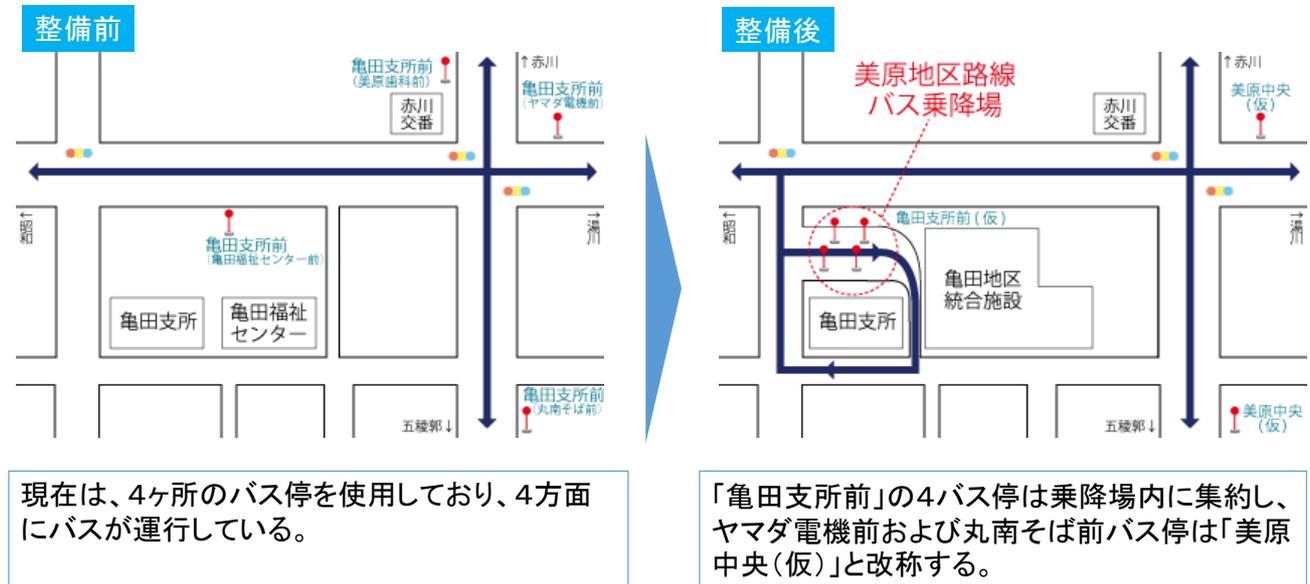
平成13年の市営バスとの経営一元化にともない、従来の函館バスと旧市営バスの系統番号が混在し、複雑になっている

《見直しの進め方》

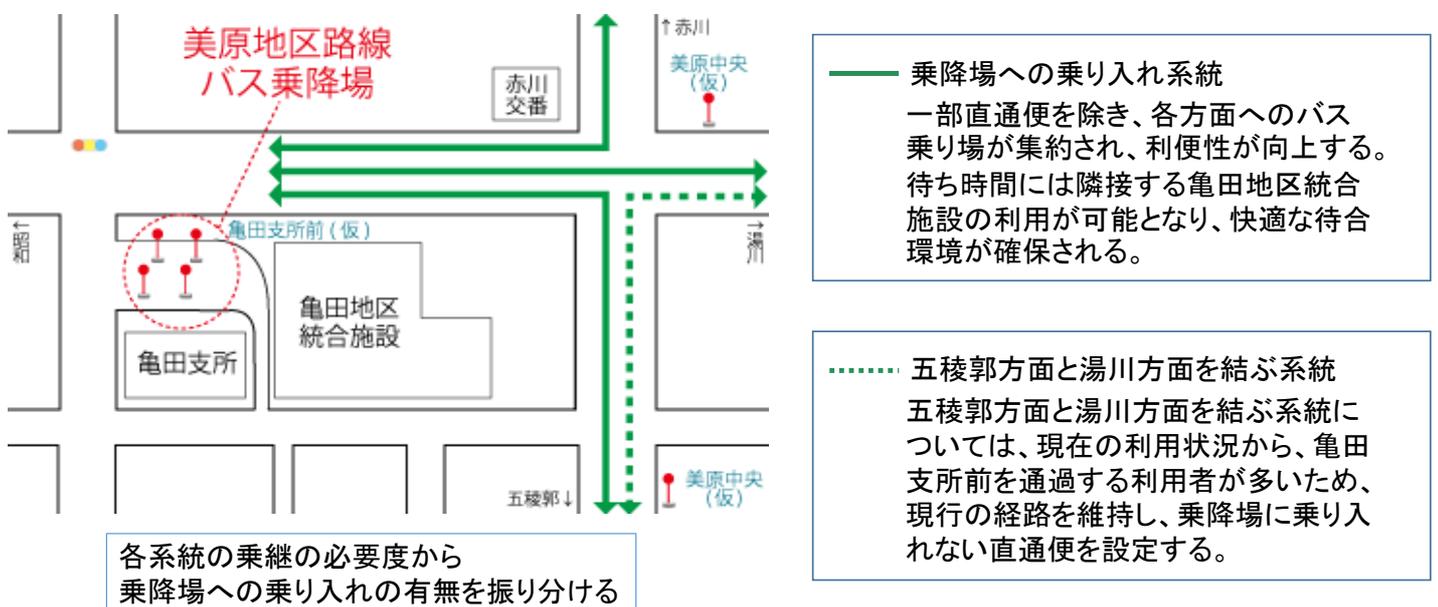
- ① 急増する訪日外国人にもわかりやすいバス系統案内を実現するため、バスの系統番号・案内表示を改善する。
- ② 国土交通省主催の「バス系統ナンバリング検討会」が平成30年5月に策定を予定するガイドラインを参照し、全国的なルールとの整合性を視野に入れて検討を進める。
- ③ 系統ナンバリングにあたっては、学識者等から意見をいただき、幅広い利用者にとって分かりやすい系統番号の設定を図る。

2 美原地区路線バス乗降場の活用方法① ～バス停の集約

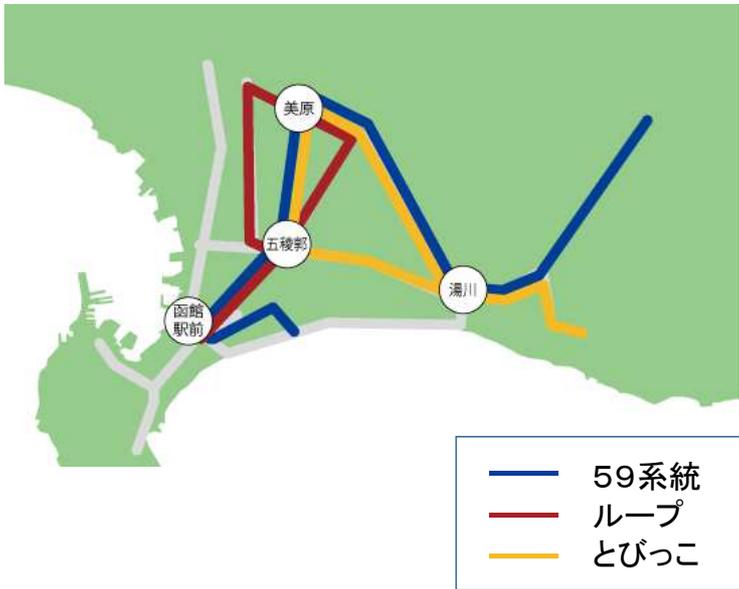
《整備後の亀田支所前バス停イメージ》



2 美原地区路線バス乗降場の活用方法② ～乗り入れ方針



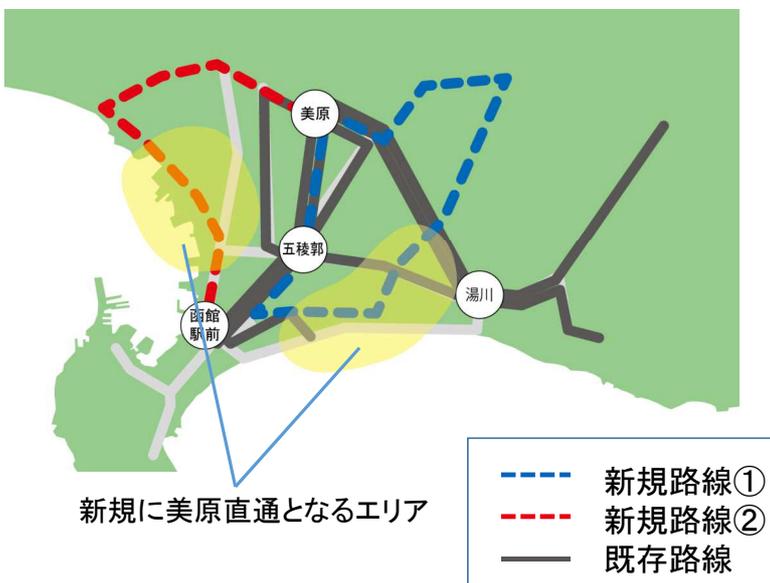
3 路線網の再編① 高収益路線の維持



既存路線のうち高収益路線については、利用者のニーズが高く、変更を加えれば利用者の混乱を招くことから原則として維持することとし、路線網の再編後においても幹線的な役割を担うものとして位置付ける。

その他、市街地を運行する路線等、再編後においても一定の需要が見込まれる既存路線については、存続を原則とする。

3 路線網の再編② 新規路線の設定

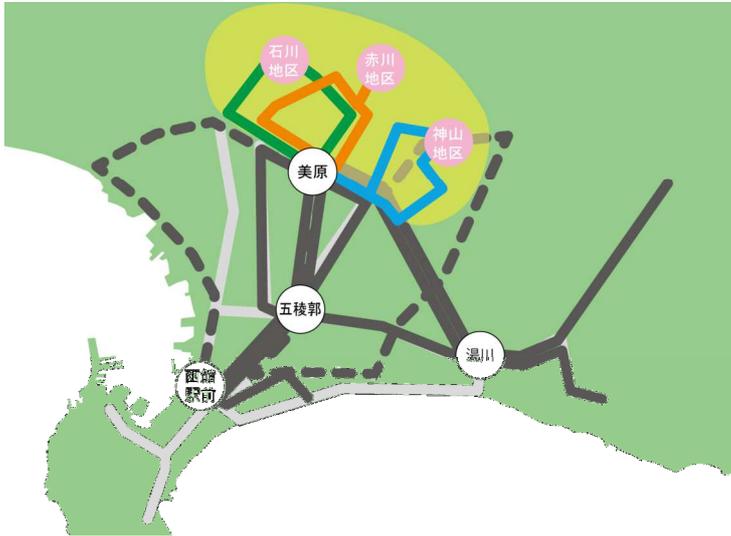


ニーズの変化を反映し、現行の路線を補完する新規路線を設定する。

これにより、従来乗継ぎが必要であった一部の区間を直通で移動することが可能となり、利便性が向上する。

あわせて重複路線、不採算路線については見直しを行い、路線網の効率化を図る。

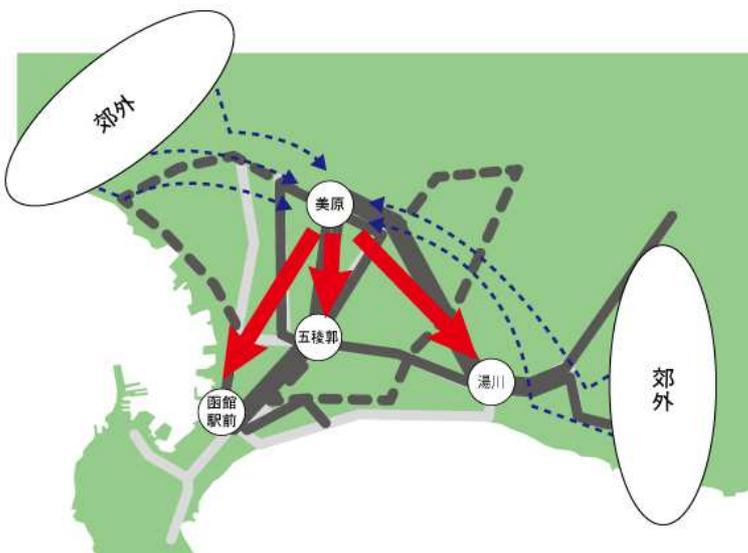
3 路線網の再編③ ゾーンバスシステムの導入



シミュレーションの結果、全市的な規模のゾーンバスシステムの導入はかえって効率性の低下を招くことが明らかになったことから、ゾーンバス化によりメリットを享受できる地区を限定し、導入を進める。

石川、赤川、神山地区等に美原地区路線バス乗降場を中心としたゾーンバスシステムを導入し、乗換による多様な目的地への移動が容易になるなどの利便性の維持確保と、路線網の効率化の両立を図る。

3 路線網の再編④ 近郊郊外線的美原集約化



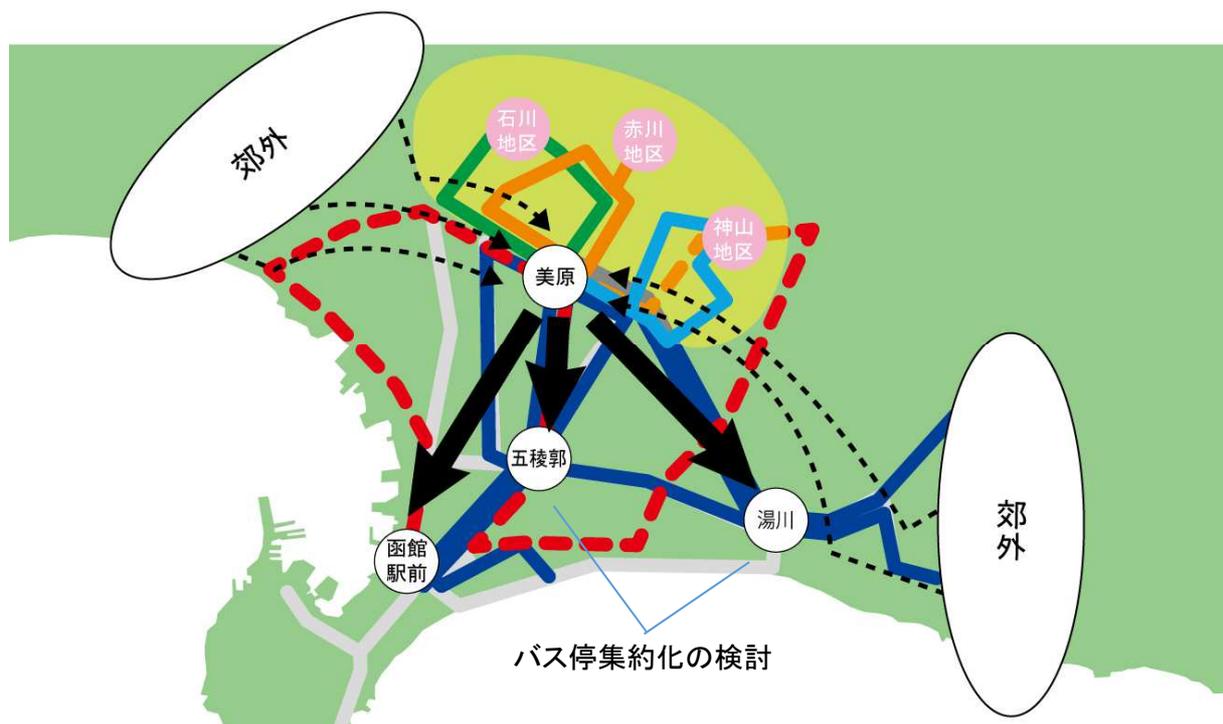
近郊郊外線の起終点を美原地区路線バス乗降場に設定し、函館市内線への乗換を想定した路線に転換する。

また、美原地区路線バス乗降場から市内全域へのアクセスを改善するとともに、乗換を容易にするための案内システムの導入を検討し、利便性の維持確保と、路線網の効率化の両立を図る。

《新たなアクセスシステムの導入》

・IoT及びAIを活用し、統合施設到着までの間に乗換後の目的地を登録することにより、乗換便の配車および経路設定を自動で行うシステムなどの導入を検討する。

3 路線網の再編⑤ まとめ



3 路線網の再編⑥

～段階的取組みによる路線網の再編

《再編事業の実施時期》

	平成30年 (2018年)	平成31年 (2019年)	平成32年 (2020年)	平成33年 (2021年)
再編実施計画の策定	検討	H31.3 再編実施計画策定		
系統番号の見直し	検討	周知	H31.4 新規系統番号の導入	
美原地区路線バス乗降場の整備	基本設計	実施設計	施工	H33.4 美原地区路線バス乗降場供用開始
路線網の再編	段階的な路線網再編(新規路線の設定, 重複・不採算路線の見直し)			ゾーンバス等の導入 ※具体的なスケジュールは今後検討予定